



心に響き、交流につながるデザインを提案する北川さん

四国の事業者とデザイナーが一堂に会し 心に響くものづくりとデザインを語る

「四国デザインサミットin内子座」(四国経済産業局主催)が3月4日、内子座で開かれました。基調講演では「変なホテル」をブランディングした北川一成さんが「売れないデザインの作り方」と題して登壇。「人間のくせを知り、デザインに応用することが大切」と説きました。デザイナーと事業者による商品づくりの事例紹介もあり、参加者はデザインが持つ力や可能性を学んでいました。

おじいちゃんのスマッシュにびっくり 老若男女266人が楽しむ卓球大会

「第51回小田地区卓球大会」(小田自治センター主催)が2月25日、城の台公園で開かれ、住民266人が参加しました。冷めない卓球熱で、50年以上も続く大会。今年も世代を超えて白熱した試合が繰り広げられました。大会長の上山淳一さんは「75歳以上のチームが準優勝するなど、高齢者が大活躍。体育館中に歓声や笑い声が響いて、いい大会になった」と喜びました。



卓球台がズラリと並んだ体育館で熱戦が繰り広げられた



春から小学生になる園児たち

甘いイチゴの香りに春を感じながら—— 小田幼稚園が「お別れ遠足・イチゴ狩り」

卒園前に楽しい思い出を増やそうと小田幼稚園(峯下とも子園長、園児20人)は3月8日、観光農園エコファームうちこで「お別れ遠足・イチゴ狩り」を行いました。園児たちはたくさん実ったイチゴを見て大喜び。赤くて大きな粒を両手に持って、「甘くておいしい」と頬張っていました。峯下園長は「喜ぶ子どもたちの姿がほほえましかった。最後の遠足が思い出になれば」と願いました。

NHKラジオ「旅ラジ!」公開生放送 声で内子町の魅力を全国へ発信

NHKラジオ第1「旅ラジ!」の公開生放送が3月1日、内子フレッシュパークからりで行われました。ラジオカー「90ちゃん号」が全国各地を回ってそのまちの魅力を伝える番組で、元地域おこし協力隊の山内大輔さんがガイド役として登場。魅力溢れる内子の人を紹介していきました。和紙製のベースの音色を披露した大森陸雄さんは「わしが和紙で作った」と、会場を笑いで包みました。



「90ちゃん号」のステージで、町民5人が町の魅力を紹介



美しい森に育つよう心を込めて植える参加者

緑豊かな森を育てよう 神南山に苗木520本を植樹

「内子の森づくり事業」(内子町、愛媛新聞社共催)が3月11日、神南山ふるさとの森公園で開かれました。立川小と小田小の緑の少年団など約100人が参加し、ヤマザクラやイロハモミジなど17種類・520本の苗木を植えました。参加者は町内の樹木医・尾花吉光さんに植栽する樹種の特徴や植え方を学んだ後、眺めのいい斜面でクワを振りながら、気持ちよさそうに汗を流していました。

農家の蔵や軒先に眠るお宝を探そう からりが「フリーマーケット」を開催

「農家の軒先フリーマーケット」が3月4日、道の駅から開かれました。農産物の少ない時期も買い物を楽しんでほしいと今年1月に始まり、毎月第1日曜日に開催(6月まで実施予定)。生産者や職員が持ち寄った食器や農機具などが並び、多くの人でにぎわっています。初めて出品した玉井典子さんは「お客さんの顔を見ながら、いろいろ話せるのがうれしい」と交流を楽しんでいました。



掘り出し物を求める人で朝からにぎわう会場



春の訪れを告げるお稚児さん

200年以上続く春の伝統行事 高昌寺で「ねはん祭り」を開催

内子の春の風物詩「ねはん祭り」が3月14・15の両日、高昌寺で開かれました。15日には、4月から小学1年生になる町内外の子どもたち60人が稚児行列を行い、色鮮やかな衣装を身にまとい、八日市・護国の町並みや商店街を練り歩きました。境内では早咲きの桜が満開になり、餅まきや和太鼓演奏などを楽しむ人々が、一足早い春の訪れを満喫していました。

丹念につくった土と竹林で育つ、 おいしいタケノコいただきませーす

立川小学校(金築治美校長、児童31人)は3月6日、廣見光幸さんの竹林で「タケノコ掘り体験」をしました。児童たちは土壌を保全する大切さなどを学んだ後、一斉にタケノコ探しを開始。少しだけ頭を出したタケノコを見つけて、「あー」と大きな声を上げていました。廣見さんは「今年は寒いので、まだ小さかった。でもアク抜きなしで天ぷらにできておいしいよ」と笑顔で話しました。



光が差し込む竹林でタケノコ掘りを楽しむ児童